

平成28年11月7日

大網白里市議会議長 岡田 憲二 様

総務常任委員会委員長 山田繁子
文教福祉常任委員会委員長 加藤岡美佐子
産業建設常任委員会委員長 田辺正弘

行政視察結果報告書

- 1 期 日 平成28年10月4日（火）～10月5日（水）
- 2 視 察 先 石川県輪島市・珠洲市
- 3 調査事項 石川県輪島市 6次産業化支援事業について
移住・定住促進に係る取り組みについて
石川県珠洲市 バイオマスメタン発酵施設
- 4 参加議員

総務常任委員会	山田繁子、小倉利昭、北田宏彦、花澤房義 黒須俊隆
文教福祉常任委員会	加藤岡美佐子、小金井勉、森建二 蛭田公二郎、秋葉好美
産業建設常任委員会	田辺正弘、前之園孝光、石渡登志男 堀本孝雄、倉持安幸

議 長 岡田憲二
- 5 経 費 別紙のとおり

石川県輪島市

日時：平成28年10月4日（火）午後1時30分～午後3時

出席者：農林水産課 竹本主査、企画課里づくり推進室 野中次長

人口：28418人 平成28年9月30日現在

世帯：12883世帯

面積：426.2Km²

6次産業化支援事業について 竹本主査説明

農 業

輪島市の農業は、中間山地が多いため農産物の8割が水稲です。千枚田が有名であるように棚田が多くあります。平成27年度の農業者数は1521人、水稲作付面積1191ヘクタール、平成23年度と比べ年々減少し農業者数は473人減、水稲作付面積は69ヘクタール減となっています。水稲以外の農産物は、能登かぼちゃ、ミニトマト、能登山菜、そば、ほうれんそう、アスパラガスなどです。

石川県全体として農産物を加工する事業者がすくなく、加工のノウハウがなく、素材をそのまま食しているのが現状です。また、農産物の流通は、JAが担っていたため、農家が商品を開発し、流通、販売、価格の設定など6次産業事業を目指すには多くの問題がありました。

水産業

水産業は、県内でも漁獲高、漁業経営体数ともトップで、水産業は盛んです。市内には水産加工事業者が多く朝市に水産加工品、ひもの、いしるなどが多くなっています。また、地元のフグを学校給食に出し、好評です。

ワイナリー事業の経緯

代表者である高作氏がフランスに留学しワインの醸造を学び、国内でワインの製造に携わっていました。高作氏は自分のワイナリーを作りたいと思い、ぶどうの栽培から醸造まで一貫して行うことができる土地を全国を巡りさがしていたところ、輪島市の気候風土が自分の理想とするところであったため起業することにしました。平成23年3月株式会社ハイデンファームを設立、国の補助金を活用し「6次産業化、地産地消法、総合化事業計画の認定」を得ました。その他輪島市の耕作放棄対象の補助金、総務省の地域経済循環創造事業交付金を活用しています。

売上・栽培面積・雇用

会社設立後の平成24年度の売上は0円でありましたが、平成27年には3,500万円の売り上げとなりました。ぶどうの栽培面積も平成24年は0.35ヘクタールでありましたが、徐々に栽培面積を増やし平成27年には3ヘクタールとなり、今後も栽培面積を増やしていく予定であります。

現在は、ワイン製造用のぶどうは市外から調達していますが、自家農園で栽培したぶどうを使いワイン製造する目標を掲げています。ワイナリーの雇用状況は、設立当時は1名でしたが、現在は7名となっています。

また、本年4月にフレンチレストラン「ふらんじゅ」をワイナリー施設横にオープンし、ワインの製造とワインと料理を提供する事業を分社化し6次産業化を目指しています。

日本初の世界農業遺産認定と6次産業化支援

平成23年6月に「能登の里山里海」が世界農業遺産に認定されました。世界農業遺産の保全と地場産業の振興を担う人材育成を行う「輪島里山里海塾」魅力ある地域の商品づくり支援など、生産から販売に至るまでの事業展開となるよう6次産業化を市は支援していきます。





質問と回答

観光客誘致に結び付いている人気の高い地元特産品は何か。

○料理の調味料として輪島では普段の料理につかわれている「いしる」。

昔ながらの製法でつくられている「天然塩」。

「輪島塗漆器」などが人気のお土産品です。

6次産業支援事業導入後の観光客の推移は。

○6次産業によるものではないが、能登の海で撮影された連続テレビ小説「まれ」の影響で観光客は平年100万人ですが、去年は142万人と大幅に増加しました。本年は、やや減少し平年並みです。

地元の雇用状況はどうか。

○ワイナリーに関しては、現在の雇用は7人と聞いています。レストランを始めたので今後、雇用は増えていくと思います。

現在の問題点または今後の課題はあるか。

○今まで、農産物を加工することをあまり考えなかったのが事実です。そのまま食べるか簡単に調理をすることぐらいしかしていませんでした。新しい輪島ブランドとして商品化するためには、農産物・海産物の加工技術のノウハウの取得と加工業者の育成が必要と考えます。

今後のPRをどのようにしていくのか。

○情報の発信方法がキーワードと考えています。商品として魅力を感じさせるパッケージデザインも大切です。例えば輪島市のお米を2合入りパッケージにして、生

産者の名前やコメントを書いて「お米物語」として9個セットにして発売したところ好評な売れ行きです。パッケージのデザインは、若者の意見を聞き、今のデザインに決まりました。

移住・定住促進に係る取り組みについて 野中次長説明

輪島市では、人口の減少を少しでも緩和しようとして、移住者・起業者を応援しています。平成26年10月1日から新しい支援制度をスタートしました。

移住（Iターン者）支援を受けられる方

18歳以上60歳未満の方で、輪島市に住民登録を一度もしたことがなく、転入後1年以内就業し、就業から1年経過した方を支援の対象としています。

定住者（Uターン者）支援を受けられる方

30歳以上、60歳未満の方で輪島市に10年以上住民登録期間があり、市外に10年以上居住した方で、転入後、1年以内に就業し、就業から1年が経過した方を支援の対象としています。

支援の内容

移住・定住奨励金

30万円（家族のある場合、2人目20万円、3人目から10万円を加算）

住宅家賃支援

家賃の1/2（上限1か月あたり2万円 12か月支援）

住宅確保支援

新築 購入価格の1/10 上限70万円、地元産材使用で30万加算

中古購入 購入価格の1/10 上限50万、地元産材使用で10万加算

中古改修 改修費の1/2 上限50万

その他の支援 輪島市内の空家情報のデータベース化をして情報提供しています。

起業・新規出店支援事業

支援を受けられる方

市内の金融機関から3年以上の融資を受けて、市内で「小売業・飲食店・宿泊施設・製造業」などのお店を新たに始める方が対象です。

支援の内容

店舗の開設費用支援 上限300万円（対象経費の1/2又は金融機関からの借入額のいずれか少ない額）

借入金の利息を支援 上限（1年間）20万円

その他、空き店舗、空家、空き地等を活用し、新たに起業する方に最大65万円を支援しています。

質問と回答

転入者が一番魅力を感じているものは。また、要望されているものは。

○支援制度があるから輪島に転入した訳ではなく、輪島塗を学びたくて輪島市へきた者、能登空港隣接の航空学校の寮として移り住んだ者、天然塩づくりなど何等かの目的を持ち転入している者が多いと思います。

転入希望者には、空家の情報提供をしているが、多くの空家が手を加えなければ居住できないため、修繕費がかかるので空家解消までになっていません。

転入者の就労状況は。保育所等の整備状況は。

○輪島塗の漆器関連の就業など見られるが、就業先があまりないのが現状です。年間の出生者は200人程度であり、保育所の定員を超えることはありません。

現在の問題点または今後の課題はあるのか。

○輪島市は、未婚者が多く、なかでも男性の独身率が高く、市では婚活を企画するなどして、「輪島市に来てもらう。知ってもらう。興味をもってもらい。住んでもらいたい」と考えている。観光と居住者をつなぐネットワークづくりが大事と考えています。

Iターン・Uターンの応募者は。問い合わせはどのくらいあるのか。

○問い合わせは多いが、応募者は年に数件程度です。

起業はどのような業種か。

○うどん店、焼き肉屋、パン屋、スナックなど飲食関係が多くなっています。

考 察

○輪島市では、年々人口が減り続けている。それをなんとかい止めようとして、いろいろアイデアを出し合っています。行政と住民が一体となって輪島市を支えていると感じました。

○行政が出すプランに住民が参加し、住民も行政に対しプランを出している。本市の人口は微減であります。輪島市のように人口減による危機感は、今のところないが、今のうちに何等かの方策を考えなければならないと感じました。

○輪島市は、観光に力をいれている。まず輪島を知ってもらい。来てもらい。住んでもらいたい。その思いが必然に魅力あるまちづくるとつながっていると感じました。

○試行とこのことであったが、ゴルフカートを改造しての観光案内は、良いアイデアであると感じました。

石川県珠洲市

日時：平成28年10月5日（水）午前10時～午前11時30分

出席者：珠洲市生活環境課 女田課長補佐

人口：15293人 平成28年9月30日現在

世帯：6343世帯

面積：247.2Km²

バイオマスメタン発酵施設について説明 生活環境課 課長補佐 女田

珠洲市では、全国初となるバイオマスエネルギー推進事業として平成19年8月からバイオマスメタン発酵施設を稼働しました。また、本施設は国土交通省と環境省の連携事業として全国初の試みで行ったものであります。

「下水道汚泥」、「し尿」、「浄化槽汚泥」、「農業集落排水汚泥」、「事業系の生ごみ」の5種類を一括混合処理しています。処理の過程で発生するメタンガスをエネルギーとして活用し処理残物を乾燥させ「為五郎（ためごろう）」と命名した肥料を市民に無料で配布し、緑農地還元のエコを実現しています。下水汚泥、し尿、生ごみは、以前は別々に処理してきましたが、一括処理することにより、トータルコストを削減するとともに、従来の処理に比べ年間約2300トンの温室ガス(CO₂)排出量を削減し、地球温暖化防止に寄与しています。今後も循環型モデルケースとして事業を推進していきます。



施設の概要

名 称 珠洲市浄化センター バイオマスメタン発酵処理施設

処理方法 湿式中温メタン発酵処理システム

処理能力 バイオマス処理量（平成19年度計画）

	日平均 (Wt/日)	日最大 (Wt/日)
下水汚泥	15.3	22.5
農業集落排水汚泥	0.5	0.7
浄化槽汚泥	8.1	14.6
し尿	7.6	11.3
生ごみ	1.4	2.4
合計	32.9	51.5

着 工 平成18年1月

完 成 平成19年9月

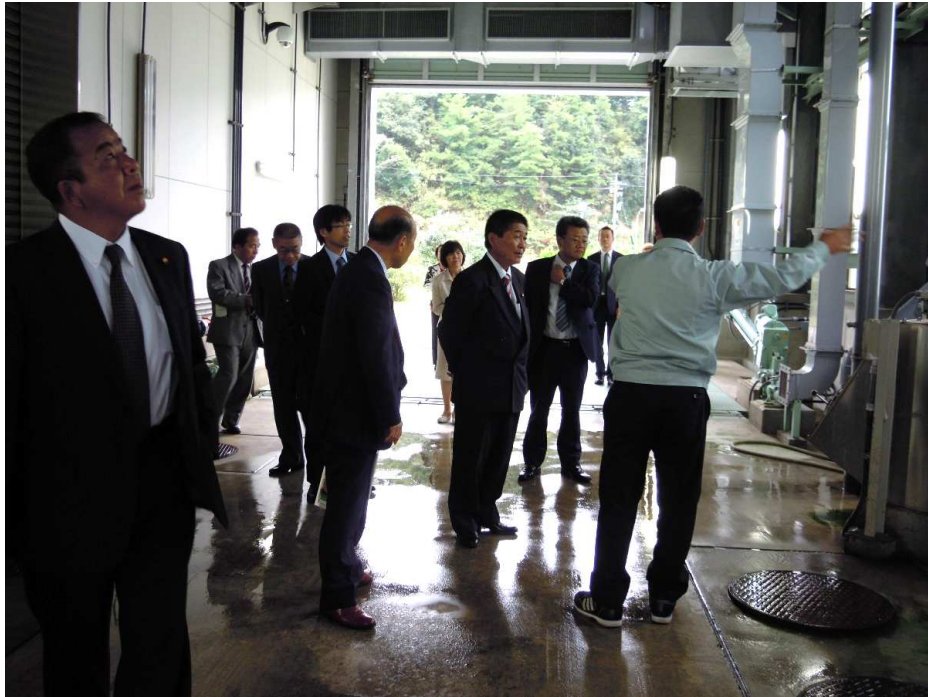
総事業費 13億9000万円

補助対象事業 国土交通省と環境省の連携事業として全国初の試み

国土交通省所管 新世代下水道支援事業制度リサイクル推進事業

環境省所管 循環型社会形成促進交付金事業





質問と回答

生ごみは、家庭からのごみなのか。

○学校給食の残り、生魚店などの事業系生ごみのみを受け入れています。

メタンガスはどのようにエネルギーとして利用されるのか。

○汚泥を肥料とするための乾燥用ボイラーの燃料として利用しています。

メンテナンスはどうしているのか。

○定期的な点検はしているが、機械類は特別注文で製造したもののなので、正直なところ今後どのようなトラブルが起きるのか分かりません。修理もメーカーでしかできません。

コストの削減は、具体的にどのようなことか。

○汚泥を処理場へ運ぶためのトラックの燃料費の削減ができました。

考 察

○本市では、各家庭からの雑排や汚物は、公共下水道、農業集落排水、コミュニティ処理、合併浄化槽を設置し、汚泥はそれぞれ別々に処理をしています。珠洲市と似ています。珠洲市がとりいれた一括での処理は、本市でも研究すべきはないかと思えます。

○生ごみを焼却処理するにはコストと焼却施設が必要となります。珠洲市では、生ごみを肥料にして農地に還元しています。焼却施設の負担が減り、施設の維持管理費の削減にもなると思えます。

○画期的な処理方法だと思います。一方特殊な機械ということで、今後のメンテナンスが大変ではないかと思いました。

別紙

5 経費

【三常任委員会合同行政視察研修経費】

① 宿泊日当 (13,100 円×1 日 + 600 円×2 日) × 16 人	=	228,800 円
② 交通費 (航空運賃 31,180 円・高速バス 3,500 円) × 16 人	=	554,880 円
③ 借上バス (2 日)		183,140 円
④ 諸経費 (旅行業務取扱・添乗員費用)		82,080 円

合 計 1,048,900 円